

JA南さつまによる事業間連携をより密にした 農業融資伸長に向けた取り組み

JA南さつまでは「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」を目指し、「農家の庭先がJAの窓口」という経営理念のもと、JAグループの強みである総合事業を活かした事業間連携を行うなかで、農家や各種品目の部会等に足を運び、より多くの声を聞き、農家に寄り添った取り組みを展開しております。



取り組み

信用および営農・経済部門との合同会議を通じた情報共有

部会や座談会などを通じたJAバンク農業資金のPR

総合事業を活かした他事業間での定例会議

JA南さつまでは、10年以上前まで定期的に他事業間会議を開催していたものの、業務の多様化等によりスケジュール調整が難しくなり、ここ数年は開催出来ていなかった。しかし、一昨年、融資担当者が本所へ集約されたことをきっかけに、「定例訪問会議」の開催が実現。JAグループの強みである総合事業を活かし、農家・組合員におけるJAバンクのメイン化を目的に、令和6年度より毎月開催する運びとなった。

効果

農家からの悩みや課題の把握
新たな資金需要の把握

JA農業資金の優先順位の引き上げ
JAのメインバンク化

当会議では、JA南さつまの営農部門と信用部門の担当者に加え、中央会・信連職員も参画し、オープンでフラットな会議を目指して取り組んでいる。農家訪問や座談会等で得た農家からの意見だけでなく、資材や各種品目の価格動向等営農目線からの意見や、県連合会で把握しているJA南さつま管内以外の状況を共有するなど、より最新の情報を相互に共有している。

管内農家からの課題・悩みに対して真摯に向き合い、農家支援を行った

当会議の成果として、「担い手コンサルティング」を円滑に進められたことがひとつ挙げられる。担い手コンサルティングとは、担い手が抱える経営課題を可視化し、JAグループ一体となってその経営課題の解決を目指す取り組みである。会議を通して、信用部門と営農経済部門、また、信連と中央会営農サポートセンターが良好な関係を築けていたことで、適切な農家支援を行うことができた。また、JA南さつま管内のサツマイモ農家でサツマイモ茎根腐細菌病という病害が例年以上に発生した際には、営農経済部門が被害を受けた農家からの相談を受け、定例訪問会議にて各部門へ共有。信用部門においては、営農経済部門と協力して被害状況の聞き取りを行い、資金対応について検討を行った。会議の段階では対応できる資金はなかったが、部門間での情報共有を早めに行っていたことにより、既存資金の要領改正に取り組み、農家に貢献する態勢を整えることが出来た。

これから先も変わらない事業間連携

JA南さつまとしては、管内の農家から頂いた意見を金融面、営農面様々な角度から支援していきたいと考えている。JAグループの強みである「総合事業を最大限に発揮する」ことがJAの存

在意義であり、そのためには、一部門だけではなく、JA南さつま全体での対応が必要不可欠である。今後も定例訪問会議を通じて、部門間の連携をより一層強め、よりよいJA南さつまを作り上げていく。

JA南さつま

設立：平成10年3月

管轄区域：南さつま市・枕崎市・南九州市
※金峰町・頰娃町除く

経営理念：農家の庭先がJAの窓口

組合員数：正組合員 5,158人
准組合員 7,484人

残高実績：貯金 161,762百万円
貸出金 30,464百万円

※令和8年2月末実績

南薩地域3市を区域とした県内でも大型のJAです。

温暖な気候と山間冷涼を活かしたお茶の生産が盛んで、かぼちゃや砂丘らっきょう、知覧紅さつまいも、きんかん春姫、たんかんがかごしまブランド産地の指定を受け、一大産地を形成しています。

JA南さつま
金融共済部 金融課
農業融資専任 俵積田 主査



Field Notes

日頃から営農部門とは相互に連携をとるようにしており、良好な関係性を築けている。融資業務においては、営農指

導員から共有いただいた新規就農者の情報をもとに農家訪問を行ったり資金計画を作成する際に、営農面のアドバイスを受けたりと、総合事業ならではの連携

が取れていると感じる。管内農家の多くの声を聴き、適切な支援を行うためには、他部門と相互に協力しあう関係づくりが重要であることから、農家に一番近い存

在である営農部門と協力し合い、「JAはやっぱ頼りになる」と思ってもらえるような組織、またその一員となれるよう努めてまいります。